

# スポーツの現状と課題について

## 1. スポーツを取り巻く社会背景及び国・都のスポーツ施策の動向

### 【スポーツを取り巻く社会背景】

#### 超高齢社会の到来

##### →超高齢社会への対応

スポーツを通じた健康増進や生きがいづくりの創出が課題

#### 子どもたちの意欲・体力の低下

##### →知・徳・体を鍛え、時代を担う人材を育成

スポーツを通じた競い合いからタフな性格や体力を育成するとともに、トップアスリートの活躍を通じた日本人としての自覚や誇りを醸成する必要

#### スポーツ・レクリエーション活動の多様化

##### →公共の場でのスポーツ需要への対応

誰もが身近にスポーツに親しむことができる場を整備するとともに、公共の場でのマナーを向上する必要

#### 単身世帯の増加・無縁社会（地域の絆）

##### →地域コミュニティの活性化

地域スポーツクラブ等を通じたコミュニティを増進し、トップスポーツと地域スポーツとの連携構築による好循環を創出する必要

#### 東日本大震災の発生

##### →日本復興への貢献

スポーツを通じた被災地支援や2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、継続的な復興に向けた貢献を行っていく必要

#### 2020年東京オリンピック・パラリンピック招致

##### →東京の魅力の向上・発信

国際スポーツ大会やイベントを通じたスポーツツーリズムの推進、2020年東京オリンピックパラリンピック招致を通じたまちづくりに取り組む必要

### 【国・都のスポーツ施策の動向】

#### スポーツ基本法（平成23年8月施行）

- スポーツは、世界共通の人類の文化
- スポーツを通じた幸福で豊かな生活を営むことは人々の権利
- 地域スポーツ、障害者スポーツなど新たな視点・方向性

#### スポーツ基本計画（平成24年3月）

- 今後5年間で総合的かつ計画的に取り組むべき施策
- 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実
  - 若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
  - 住民が主体的に参加する地域のスポーツ環境の整備
  - 国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備
  - オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進
  - ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性、公平・公正性の向上
  - スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進

#### 東京都スポーツ推進計画（平成25年3月）

##### 基本理念

スポーツの力をすべての人に  
～誰もがいつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しみ、スポーツの力で人と都市が活性化する「スポーツ都市東京」を実現～

##### スポーツ都市東京の実現に向けた5つの戦略

- ①スポーツに触れて楽しむ機会の創出
- ②スポーツをしたくなるまちづくり
- ③ライフステージに応じたスポーツ活動の支援
- ④世界を目指すアスリートの育成
- ⑤国際交流、観光、都市づくり政策等との連動

## 2. スポーツ振興に向けての新たな視点

### ① スポーツを通じた復興に向けた取組

○被災地のまちづくり、地域活性化に資するスポーツを通じた復興支援のあり方

### ② シニアスポーツ振興などライフステージに応じた生涯スポーツの振興

○各ライフステージ（子ども・若年層・中年期・高齢層等）における重点課題と効果的な取組のあり方

### ③ 障害者スポーツの振興

○障害者スポーツの推進における重点課題と優先的に取り組むべき事項

### ④ 子どもの体力向上

○スポーツが好きな子どもを増やすために  
○子どもの体力向上に向けた学校と連携した取組のあり方

### ⑤ スポーツの環境の整備とまちづくり

○まちづくりに資するスポーツ環境の整備のあり方  
○公共の場でのスポーツにおけるマナー向上など、ソフト面での課題・取組

### ⑥ 地域スポーツの推進、地域スポーツとトップスポーツの好循環

○地域スポーツクラブのあり方の検討、支援の方向性

### ⑦ プロスポーツと地域との関わり

○プロスポーツと地域との関わりの事例・どのような支援が必要か

### ⑧ 2020年オリンピック・パラリンピック開催に向けた気運醸成

○オリンピック・レガシー（オリンピック開催により築いたハードやソフトの遺産（Legacy））の活用

### ⑨ スポーツツーリズムの推進

○スポーツ・ツーリズムのあり方、課題

### ⑩ スポーツを支える組織の充実

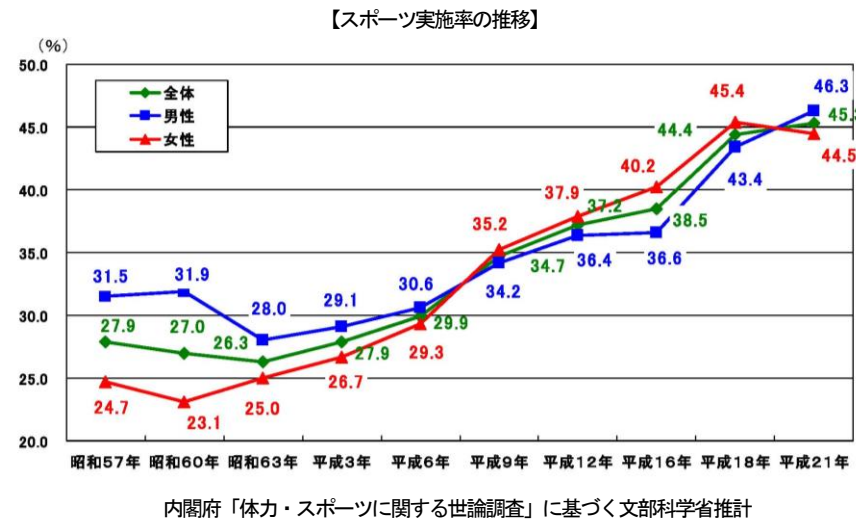
○人材バンクの有効活用  
○スポーツ・コミッションの設立

### 3. 運動・スポーツの実施状況

#### (1) スポーツ実施率の推移 ～実施率は増加傾向～

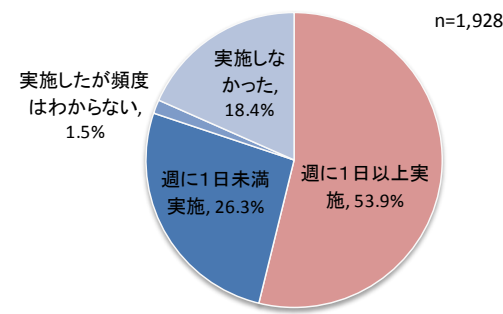
国は、スポーツ基本計画（H24）において、「できる限り早期に、成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人（65%程度）、週3回以上のスポーツ実施率が3人に1人（30%程度）となることを目指す」としています。

近年の成人全体のスポーツ実施率（週1回以上）は、緩やかに上昇傾向にあり、平成21年時点で、45.3%となっています。



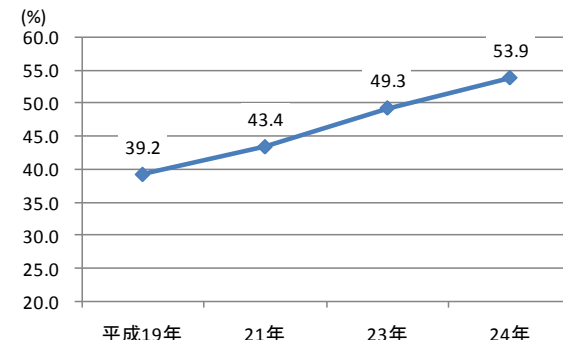
東京都の成人全体全体のスポーツ実施率は、平成24年時点で53.9%となっています。過去の調査と比べると、平成19年の39.2%から年々上昇しており、文部科学省が定めた目標値の65%に近づいています。

【スポーツ・運動の実施頻度（平成24年）】



東京都「都民のスポーツ活動に関する世論調査」(H24)に基づく集計

【スポーツ・運動を週に1日以上実施した人の割合の推移】

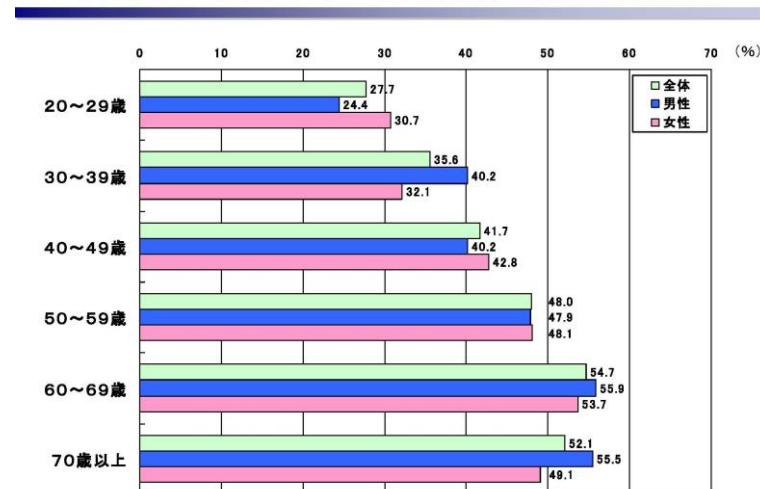


東京都「都民のスポーツ活動に関する世論調査」(H24)及び「スポーツ・運動に関する世論調査」(H21)より作成

#### (2) 年齢別のスポーツ実施率 ～20歳代男性と30歳代女性で低い～

スポーツ実施率を年齢別にみると、20～29歳、30～39歳で低いことが指摘されています。特に、20歳代の男性、30歳代の女性で実施率が低くなっています。

週1回以上運動・スポーツを行う者の割合（年齢別）



資料：内閣府「体力・スポーツに関する世論調査」に基づく文部科学省推計

### 4. よく行う運動・スポーツの種目、スポーツを行う環境

#### (1) 種目別運動・スポーツの実施率 ～男女ともウォーキングと体操の実施率が高い～

東京都の調査によると、1年間に行われた運動やスポーツの種目別実施率は「ウォーキング、散歩」が62.8%と最も多く、次いで「体操（ラジオ体操などを含む）」（32.8%）、「軽い球技（キャッチボールなど）」（15.1%）、「サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ」（13.0%）、「ランニング（ジョギング）」（12.9%）となっています。男女別にみると、男女とも「ウォーキング、散歩」と「体操（ラジオ体操などを含む）」で実施率が高くなっています。また、男性では10種目中9種目が実施率10%を超えていますが、女性では6種目にとどまっています。

【種目別運動・スポーツ実施率 上位10種目】

全体			男性			女性		
順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)	順位	実施種目	実施率 (%)
1	ウォーキング、散歩	62.8	1	ウォーキング、散歩	60.1	1	ウォーキング、散歩	65.6
2	体操（ラジオ体操などを含む）	32.8	2	体操（ラジオ体操などを含む）	24.6	2	体操（ラジオ体操などを含む）	41.1
3	軽い球技（キャッチボールなど）	15.1	3	ゴルフ	19.1	3	軽い水泳（水中歩行などを含む）	11.9
4	サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ	13.0	4	軽い球技（キャッチボールなど）	19.0	4	室内運動器具を使ってする運動	11.7
5	ランニング（ジョギング）	12.9	5	ランニング（ジョギング）	17.6	5	軽い球技（キャッチボールなど）	11.2
6	軽い水泳（水中歩行などを含む）	12.8	6	サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ	16.0	6	サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ	10.0
7	室内運動器具を使ってする運動	11.5	7	軽い水泳（水中歩行などを含む）	13.6	7	ハイキング、ワンダーフォーゲルなど	8.8
8	ゴルフ	10.9	8	ボウリング	12.6	8	ボウリング	8.1
9	ボウリング	10.4	9	室内運動器具を使ってする運動	11.2	9	ランニング（ジョギング）	7.8
10	ハイキング、ワンダーフォーゲルなど	8.0	10	海水浴（遊泳）	9.1	10	ダンス	6.9

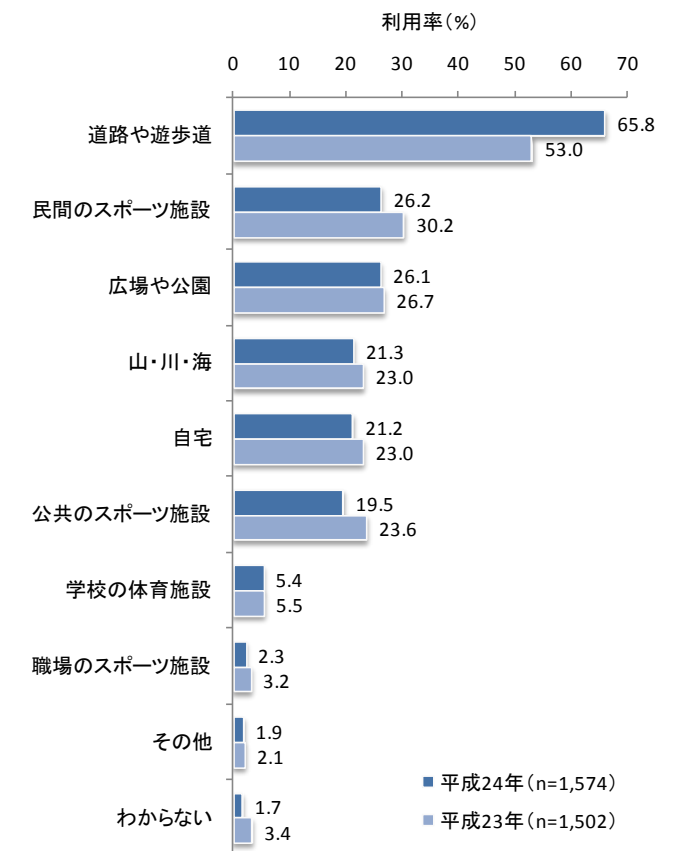
東京都「都民のスポーツ活動に関する世論調査」(H24)に基づく集計

#### (2) 運動・スポーツを行う環境 ～道路や遊歩道が最も多い～

東京都の調査によると、この1年間にスポーツや運動を行ったと答えた人に、スポーツ・運動を行った場所を聞いたところ、「道路や遊歩道」が65.8%で最も多く、次いで「民間のスポーツ施設」26.2%、「広場や公園」26.1%、「山・川・海」21.3%、「自宅」21.2%、「公共のスポーツ施設」19.5%となっています。

平成23年の調査と比べると、「道路や遊歩道」が12.8%増加した一方、「民間のスポーツ施設」が4.0%、「公共のスポーツ施設」が4.1%減少しています。

【スポーツ・運動を行った場所】



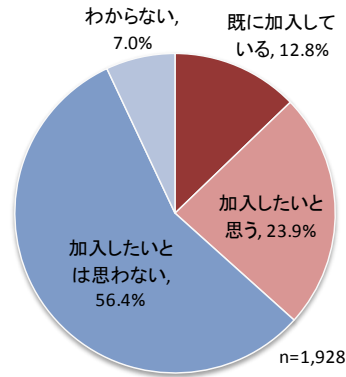
東京都「都民のスポーツ活動に関する世論調査」(H24)に基づく集計

## 5. スポーツクラブ・同好会・チーム

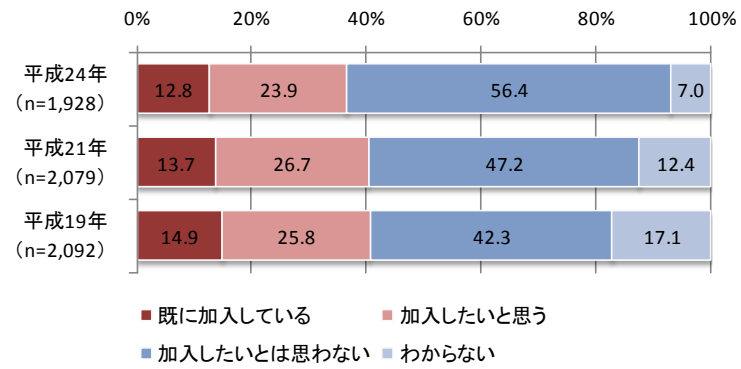
### (1) スポーツクラブ・同好会・チームへの加入状況 ～加入の意向を示す人は微減～

東京都の調査によると、クラブや同好会に加入している人は12.8%、今後加入したいと思う人は23.9%でした。既に加入している人及び、今後加入したいと思う人の割合は、平成19年以降、わずかに減少傾向を示しておりますが、加入したいと思わない人の割合は年々増加しています。

【クラブや同好会への加入状況と今後の意向（平成24年）】



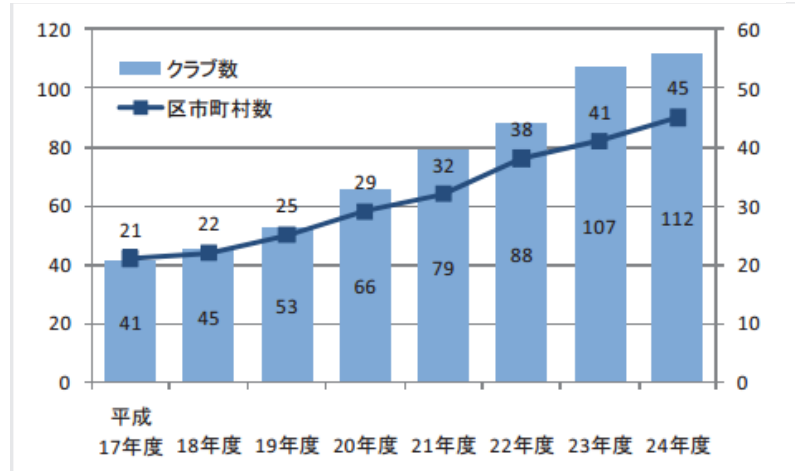
【クラブや同好会への加入状況及び加入意向の推移】



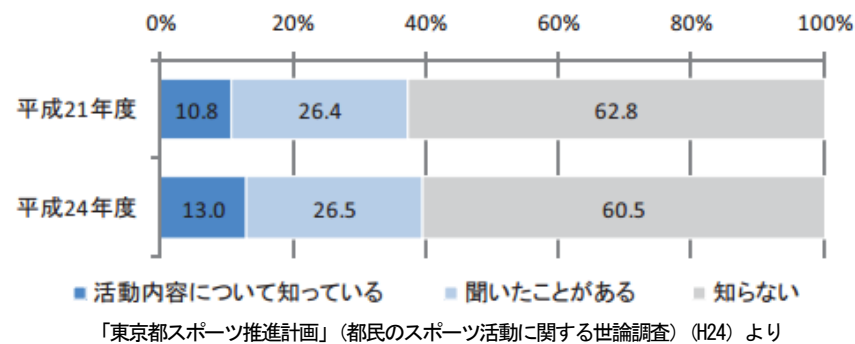
### (2) 総合型地域スポーツクラブの状況(東京都) ～設置は進んでいるが、認知度は低い～

東京都の調査によると、都における総合型地域スポーツクラブ設置状況の推移では、平成25年2月末現在、62区市町村のうち45区市町村に112クラブが設立されています。また都民全体の総合型地域スポーツクラブの認知度は39.5%となっており、平成21年に比べ増加傾向となっておりますが、必ずしも十分な状況であるとはいえません。

【総合型地域スポーツクラブ設置状況の推移】



【総合型地域スポーツクラブの認知度】



### ◆総合型地域スポーツクラブの充実・発展

総合型地域スポーツクラブは、「多様性」「多世代」「多様な技術・技能」に合わせてスポーツを楽しむことができ、クラブ会員一人ひとりがスポーツサービスの受け手と同時に担い手となる、新しい形態のスポーツクラブです。



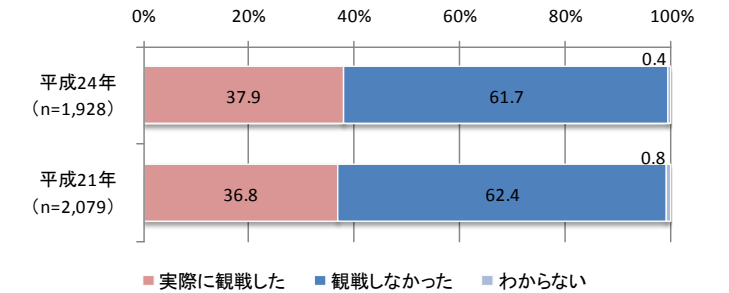
現在、地域スポーツ活動の推進に

より、「新しい公共」を形成することが、国の重点戦略になっています。その「新しい公共」を担うコミュニティ拠点として、総合型地域スポーツクラブの充実・発展が目指されています。

### 6. スポーツ観戦～みるスポーツ～ ～直接観戦する人は約4割～

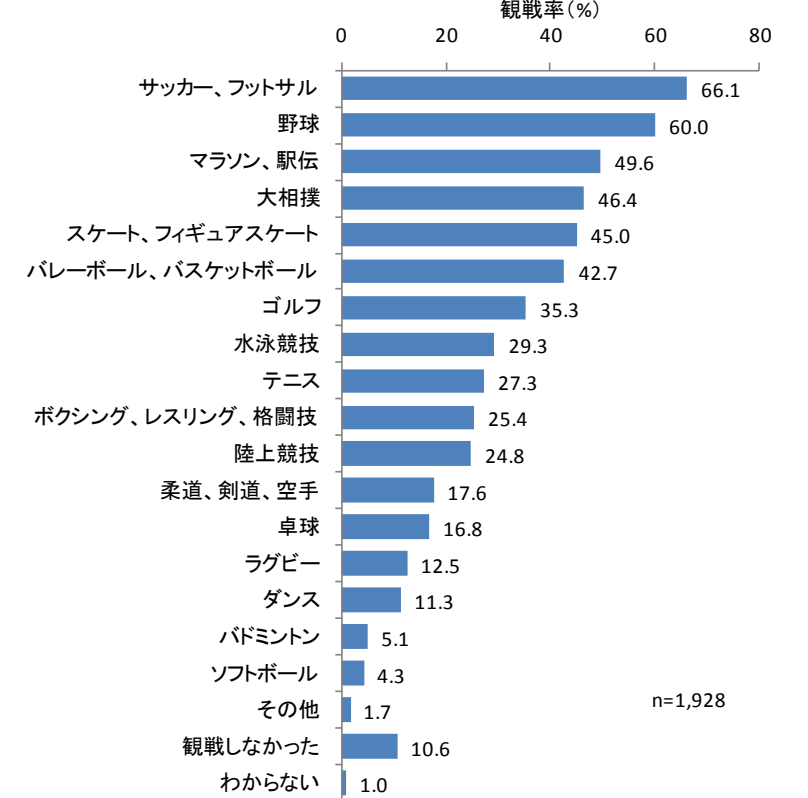
東京都の調査によると、過去1年間に、体育館・スタジアム等へ足を運んで直接スポーツを観戦した人の割合は37.9%であり、平成21年(36.8%)の結果とほぼ同じ値です。

【この1年間のスポーツ観戦の有無(平成24年)】



また、過去1年間にテレビ・ラジオで観戦した種目は、「サッカー、フットサル」が66.1%と最も高く、次いで「野球」(60.0%)、「マラソン、駅伝」(49.6%)、「大相撲」(46.4%)と続いています。

【この1年間にテレビ・ラジオで観戦したスポーツ】

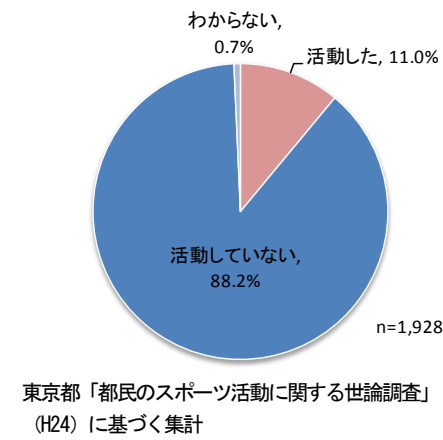




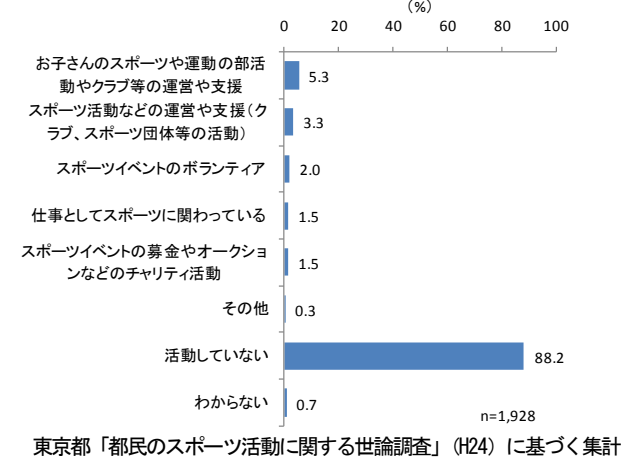
## 7. スポーツボランティア～ささえるスポーツ～ ～スポーツを支える人の割合は約1割～

東京都の調査によると、過去1年間にスポーツを支える活動に関わったことがある人の割合は11.0%となっています。ただし、活動した人にはインストラクターや教員など仕事としてスポーツに関わっている人も含まれているため、スポーツボランティアに関わった人はさらに少なくなると考えられます。

【この1年間に関わったスポーツを支える活動の有無】



【この1年間に関わったスポーツを支える活動(複数回答)】



## (3)障害者スポーツの振興を進める上での課題

東京都障害者スポーツ振興計画(平成24年3月)では、スポーツ行政の視点から把握した障害者スポーツ振興における主な課題として以下の5つを挙げています。

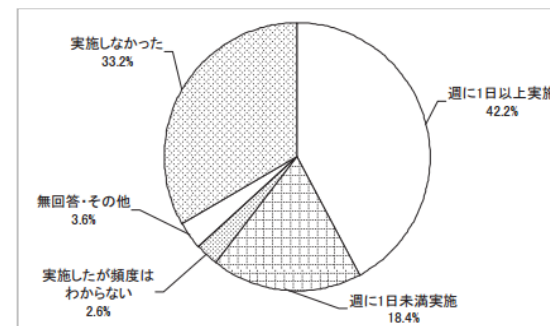
- (1) 障害者スポーツに関する情報発信・普及啓発の不足
- (2) 障害のある人が身近でスポーツ活動をする場の不足
- (3) 地域のキーパーソンとなる人材の不足
- (4) 地域でスポーツをともに楽しむ仲間の不足
- (5) 指導者側の連携体制の欠如

## 8. 障害者スポーツの現状(平成24年3月「東京都障害者スポーツ振興計画」より)

### (1)障害者のスポーツ実施率 ～都民全体と比べ実施率は低い～

東京都の調査によると、障害のある人全体のスポーツ実施率(週1日以上)は42.2%となっており、都民全体の49.3%(H23)、国全体の45.3%(H21)と比較して、開きがあります。

【スポーツ実施頻度(障害者※都民)】

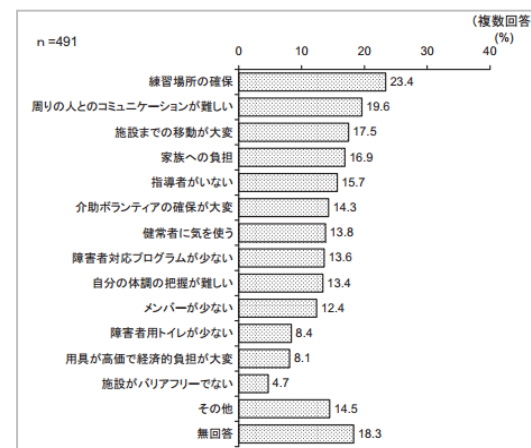


東京都「障害のある人のスポーツ・運動に関する実態調査」(H23)

### (2)障害者がスポーツをする上で困ること ～課題は多岐にわたる～

東京都の調査によると、障害者がスポーツをする上で困ることは、「練習場所の確保」が23.4%と最も多く、次いで「周りの人とのコミュニケーションが難しい」(19.6%)、「施設までの移動が大変」(17.5%)、「家族への負担」(16.9%)、「指導者がいない」(15.7%)などとなっており、スポーツをする上で課題が多岐にわたっていることが分かります。

【スポーツや運動を行う上で困ること】



東京都「障害のある人のスポーツ・運動に関する実態調査」(H23)